

うに郷通信

No.164
令和5年(2023)3月

発行：🍷 宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

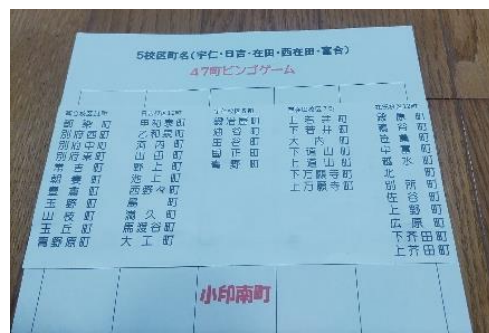
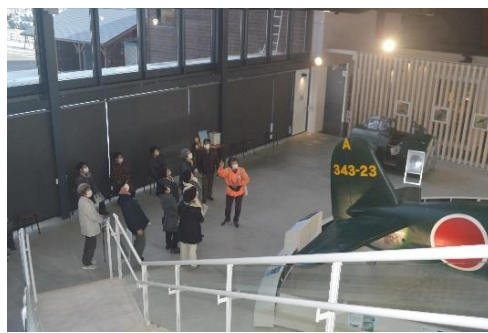
3年振りに「初午祭・子供奉納相撲」が行われました！



2月5日(日)、3年振りに青野町の伝統行事「初午祭・子供奉納相撲」が行われました。この度が生まれて初めて城山に登ることになった園児や1年・2年生の子ども達も、長く続く急で険しい坂道も誰一人として弱音を吐かず歯を食いしばり、高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんの助けや応援もあって最後まで登りきることができました。

山頂にある神社では、子ども達全員で五穀豊穰などを祈り、玉串を捧げ、事前に町役員さん達にきれいに整備していただいた土俵では、従来の体と体がぶつかる相撲ではなく、コロナ対策として距離をとった非接触のジャンケンと綱引き相撲をして「勝った!」「負けた」と、みんな真剣勝負で盛り上がりました。(青野町子供会より)

小印南 Let's go クラブ



いきいき体操を立ち上げて3年6ヶ月経ちました。コロナ禍、免許証返納者増加、高齢、等のため普段の公民館での活動から離れて近くで良いから外出して食事がしたいとの希望があり、「よっしゃ出かけよ事業」を利用して12月6日『青野町(有)まなれんたかあ』にお願いしてフラワーセンターに行き、ギネス認定されたウツボカズラなどを観てレストランで食事をしました。その後、4月18日にオープンした sora かさいと巨大防空壕2ヶ所をガイド付きで見学しました。当時の苦い体験話を聞き、施設内のスクリーンに映しだされた小印南町の長浜明子さんの詩を見つけて皆感動しました。防空壕跡では急な階段を下りて長さ14.5m 幅5m高さ5mの空間を持ったコンクリート製の防空壕の大きさに驚き、またガイドさんの説明に胸が熱くなり、今の平和のありがたさをかみしめた1日でした。

また令和5年の初茶話会は、小印南町を真中にした5校区47町のビンゴゲームをして盛り上がり楽しかったです。今年もこの気心の知れた仲間と Let's go と声掛け合いながら健康寿命を伸ばすためにみんなで頑張ります。

(小印南町 片岡あき子)

お知らせ

- * 新型コロナウイルス禍の影響を受けて今年度のさくらまつりについても中止することになりました。
- * 宇仁郷まちづくり協議会カレンダーの誤記訂正
6月のカレンダーで19日となるべきところ29日とミスプリントされています。訂正をお願いします。

加西市内の苗字



日本における貴族以外の苗字は、人間の移動がかなり広範囲にはじまりかけた中世頃にはじまるものが多い。新しい村の開発や、人の移動が盛んになると、その出身地や居住地によって、各自を区別する必要から生じたものである。加西市内には数百種の苗字があるが、そのうち地域と関係の深いものについて見よう。旧宇仁郷では宇仁姓に特色がある。ここは「播磨国風土記」に言う雲潤の里で、この古い地名が姓として続いてきたのであろう。

山下町・吉野町には荒木姓が多い。地名としての荒木を探してみると、西谷町に荒木と西荒木、山下町にも上荒木・下荒木の字名がある。市内の荒木姓の発祥の地はこのあたりかと思われる。

中西町に加門姓がある。尾崎町・大村町にいずれも字加門が見られる。なんらかのつながりがあると考えられる。各地にある西脇の地名は、河川の西側に広がる小台地を言うが、市内では玉野町にこの字名がある。網引町や別所町の西脇姓のみなもとは、ここに求められるのかも知れない。

田原町の田井は中野町の地名に見られるので、中野から田原へ移り住んだことから称した姓であろうか。田原町の橋爪は同町内の橋爪の字名を名のったものと見られる。市内でもっとも多い姓の一つの井上は、田谷・坂元・畑・下宮木などの各町に地名として存在する。古代の集落はかならず湧水を中心として開けているので、各所にこの地名、そしてそれを称する姓があるのは、当然のことであろう。

鍛冶屋・青野町の繁田・菅田姓は、鍛冶屋町にスゲ田があり、これが転じてシゲタ・スガタとなったものか。ちなみに青野町は中世末頃に鍛冶屋から別れた村である。そのため、繁田・岡田など親村と同じ姓が多い。

旧西在田村では、他にくらべて居住地周辺の小字を姓にしたものが多い。若井町の和田・釜坂はそっくりそのまま同町内にある。さらには、上万願寺町の円満・轟、下万願寺の小池・熊谷姓もそれぞれ町内に同名の小字がある。西在田地区に居住地の字名をそのまま用いた姓が多いのは、同地区が近代にいたるまで人々の移動がきわめて少なかったのによるのであろうか。(後略)

*スゲ田のスゲとはヤマツリグサ科スゲ属の総称。葉を蓑、菅笠、縄などに使用する。 ～加西市の民話と史話より転載～

宇仁郷のあゆみ 第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達⑫

宇仁郷まちづくり協議会

4. 小学校 11校を 6校にする統合案が浮上

平成20年6月の市議会で小学校11校を6校に統合する案が明らかになりました。統合案は、北条と富田、賀茂と下里、九会と富合、泉と西在田を統合、北条東は単独、宇仁地区にパイロットスクールを建設し将来日吉を統合して6校に再編するという案でした。

パイロットスクール構想とは、①0歳から12歳が対象 ②学校の中に地域住民の活動の場を作る ③地域住民が放課後に幼児や学童を預かる ④老人施設との交流 ⑤カリキュラムづくりなど学校づくりに地域が本格参加する ⑥宇仁を加西市の地域モデルとして大学とも連携しながら新しい教育の構築を目指す ⑦幼稚、保育園は統合して最終は民営化を目指す等、「加西市未来の学校づくり審議会(仮称)」や他の行政団体に素案を提示し9月をめどにまとめるという内容でした。

この素案は、教育施設の耐震対策と教育改革のハードとソフトを短期間でやろうと言う遠大な構想で、市民とのコンセンサスを得るのは難しいと感じました。この素案の住民説明会が福祉会館で開かれ、八巻教育長から説明があり、宇仁小がパイロットスクールとしての建設に光が当たりました。期成同盟の活動が実りありがたいと思いましたが、会場にいた若いお母さん方から「宇仁地区ってどこ…」の声に一抹の寂しさと不安を感じました。平成15年に新校舎用地の造成が終わりいつまでも放置できない現状に危機感を覚え、そのためには宇仁郷まちづくり協議会の活動模様を広くPRして認知度を高めていかなければと感じた次第です。

加西タイムズ

発行所
加西タイムズ社
編集発行人 小谷弘司
加西市坂本町914-90
☎08220-88220 ㊟08221
— 部 八 十 円 —

進み出した教育施設の耐震・再編 小学校は11校を6校に統合案 宇仁は0～12歳のパイロットスクール建設

六月議会で議員の質問に答え、また、定例の教育審議会が八巻教育長は教育施設の耐震補強や改築、小学校の統合問題などについて市議会に明らかにした。市の財政難に児童数の減少が加わり、議論のテーブル上から消える可能性も懸念されている。宇仁地区の示した耐震工事補助率の引き上げを視野に入れながら一気に進み出そうだ。

計画案は今後、市議会一丁の賛を高めるため

六月議会で議員の質問に答え、また、定例の教育審議会が八巻教育長は教育施設の耐震補強や改築、小学校の統合問題などについて市議会に明らかにした。市の財政難に児童数の減少が加わり、議論のテーブル上から消える可能性も懸念されている。宇仁地区の示した耐震工事補助率の引き上げを視野に入れながら一気に進み出そうだ。

計画案は今後、市議会一丁の賛を高めるため

今後の三年度で学校整備に答える。宇仁地区は、パイロットスクールの建設を進めたいとしている。宇仁地区は、パイロットスクールの建設を進めたいとしている。宇仁地区は、パイロットスクールの建設を進めたいとしている。